氷見市埋蔵文化財調査報告第68冊

氷見市内遺跡発掘調査概報Ⅵ

柳田茨木遺跡
惣領浦之前遺跡
磯辺明円遺跡

２０１６年3月

氷見市教育委員会

例　　言

1　本書は、平成26年度および同27年度に富山県氷見市内において実施した柳田茨木遺跡・惣領浦之前遺跡・磯辺明円遺跡の試掘調査報告書である。

2　調査は、市内で計画されている開発行為に伴い、氷見市教育委員会が実施した。

3　調査費用は、国庫補助金・県費補助金の交付を受けた。

4　調査期間は、以下のとおりである。

平成26年度	柳田茨木遺跡	平成26年３月３日（実働１日）
平成27年度	惣領浦之前遺跡	平成27年５月14日（実働１日）
	磯辺明円遺跡	平成27年11月26日（実働１日）

5　調査事務局は、氷見市教育委員会生涯学習・スポーツ課（平成26年度）および教育総務課（平成27年度）に置いた。事務担当は下記のとおりである。

平成26年度　課長：坂本研資、副主幹：大野　究、副主幹：布尾　誠、主任学芸員：廣瀬直樹
平成27年度　課長：草山利彦、副主幹：大野　究、主査：小谷　超、主任学芸員：廣瀬直樹

6　調査および本書の執筆・編集・製図・トレースは、廣瀬が担当した。また、遺物の整理作業は、廣瀬が中心となり、整理作業員中山　海が行った。

7　発掘作業員の派遣は公益社団法人富山県シルバー人材センター連合会に委託し、公益社団法人氷見市シルバー人材センターから派遣を受けた。調査に参加した作業員は次のとおりである。

平成26年度　清水不二雄、園　重作、中田伴行、前田宗昭、室田保之
平成27年度　河上外之、中田伴行、松田幸盛、向　修誠、室田保之、山口一雄、山端久芳

8　出土遺物と調査に関わる資料は、氷見市教育委員会教育総務課が保管している。

9　調査および本書の作成にあたり、下記の機関から多大なご教示、ご協力を得た。記して感謝申し上げる（50音順・敬称略）。

富山県教育委員会生涯学習･文化財室、氷見市建設農林水産部建設課、氷見市立博物館

目　　次

第１章：序説
　第１節：氷見市の位置と環境……1
　第２節：平成26年度下半期および同27年度事業の概要……1
第２章：個人住宅建設に伴う柳田茨木遺跡試掘調査
　第１節：遺跡の概要要……2
　第２節：調査の概要……2
　第３節：調査の結果……2
第３章：市道中谷内惣領線拡幅工事に伴う惣領浦之前遺跡試掘調査
　第１節：遺跡の概要……5
　第２節：調査の概要……5
　第３節：調査の結果……5
第４章：市道磯辺村木線拡幅工事に伴う磯辺明円遺跡試掘調査
　第１節：遺跡の概要……8
　第２節：調査の概要……8
　第３節：調査の結果……8
引用・参考文献……11
報告書抄録・奥付

表　目　次

第　１　表　柳田茨木遺跡　基本層序……3
第　２　表　惣領浦之前遺跡　基本層序……6
第　３　表　磯辺明円遺跡　基本層序……8

挿　図　目　次

第　１　図　柳田茨木遺跡位置図……2
第　２　図　柳田茨木試掘トレンチ位置図……3
第　３　図　惣領浦之前遺跡位置図……5
第　４　図　惣領浦之前遺跡試掘トレンチ位置図……6
第　５　図　磯辺明円遺跡位置図……8
第　６　図　磯辺明円遺跡試掘トレンチ位置図……9

写 真 図 版 目 次

写真１　柳田茨木遺跡試掘調査
　１．Ｔ１完掘状況（南東から）……4
　２．Ｔ２完掘状況（南から）……4
　３．作業風景……4
写真２　惣領浦之前遺跡試掘調査
　１．調査区近景（北東から）……7
　２．試掘トレンチ完掘状況（南西から）……7
　３．作業風景　……7
写真３　磯辺明円遺跡試掘調査
　１．調査区近景（北から）……10
　２．試掘トレンチ完掘状況（南西から）……10
　３．作業風景　……10

第１章　序　　説

第１節　氷見市の位置と環境

氷見市は、富山県の西北部、能登半島の基部東側に位置する。昭和27年の市制施行から昭和29年までに旧太田村を除く氷見郡１町17村が合併し、現在の氷見市が成立した。面積は約230㎢、人口は約５万人である。

市域は、北・西・南の三方が標高300 ～ 500ｍの丘陵に取り囲まれ、これら丘陵から派生する小丘陵により、西条・十三谷・上庄谷・八代谷・余川谷・灘浦の６つの区域に分けられる。また市の東側は、約20㎞の海岸線をもって富山湾に面している。市の北半部は、上庄川・余川川・阿尾川・宇波川・下田川といった小河川とその支流からなる谷地形であり、上庄川流域以外はまとまった平野が少ない。一方、市の南半部は、主として布勢水海（十二町潟）が堆積してできた平野と、その砂嘴として発達した砂丘からなる（氷見市1999・2000）。

第２節　平成26年度下半期および同27年度事業の概要

平成26年度上半期には、富山県高岡土木センターより依頼を受けた一般国道415号（谷屋大野バイパス）道路改築事業に先立つ中村大橋遺跡（氷見市中村地内）の試掘調査のほか、民間開発に伴う試掘調査３件の試掘調査を実施した。この詳細については、平成27年３月刊行の『氷見市内遺跡発掘調査概報Ｖ』（氷見市教育委員会2015）にて報告した。

一方、平成27年度下半期には、個人住宅建設に伴う柳田茨木遺跡の試掘調査１件を実施した。この試掘調査は、平成27年３月の実施となったため、同時期に編集作業を実施していた先述の『氷見市内遺跡発掘調査概報Ｖ』では未報告となった。そこで本書では、平成27年度の試掘調査成果に加え、平成26年度下半期に実施した柳田茨木遺跡の試掘調査の成果についても報告する。

さて、平成27年度の埋蔵文化財試掘調査事業では、市道の拡幅工事に先立って氷見市建設農林水産部建設課より依頼を受けた試掘調査２件を実施した。これら試掘調査の実施にあたり、国庫と県費の補助を受けた。

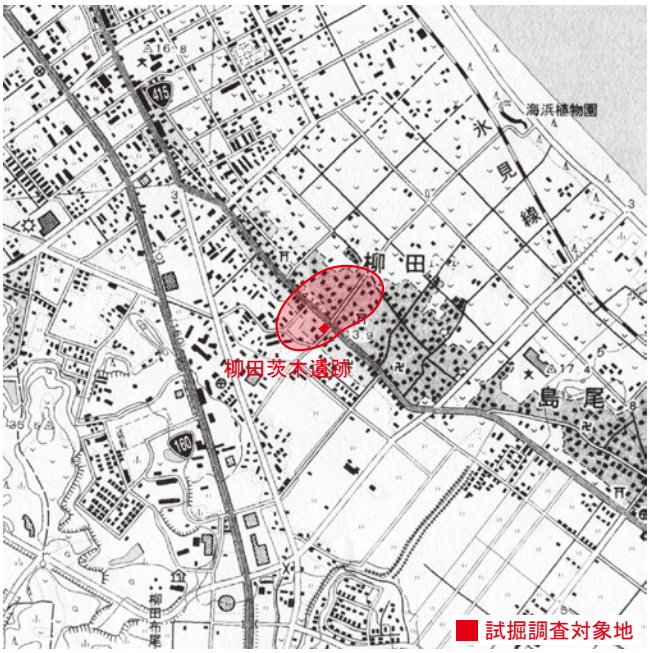
また、平成27年12月から、本文の執筆、図面トレース作業等、報告書作成に関する業務を実施した。

第２章　個人住宅建設に伴う柳田茨木遺跡試掘調査

第１節　遺跡の概要（第１図）

柳田茨木遺跡は、海岸沿いの砂丘上、標高約５ｍに立地する。平成５年度に氷見市教育委員会が実施した分布調査で発見された遺跡である。弥生土器や珠洲焼など、弥生時代および中世の遺物が散布している。現況は畑･宅地である（氷見市2002）。また、遺跡の範囲内には、戦国時代末期の館跡である「茨木館」が所在し、調査対象地の南西側がその推定地となる（大野2013）。

調査対象地は、遺跡の中央やや南寄りの298㎡、現況は畑地だが、以前は農協の施設が建てられていた。



第１図　柳田茨木遺跡位置図（Ｓ＝１/25,000）

第２節　調査の概要

所　　在　　地：氷見市柳田
調査対象面積：298㎡
発　掘　面　積：21㎡
調　査　主　体：氷見市教育委員会
調 査 担 当 者：氷見市教育委員会生涯学習・スポーツ課　主任学芸員　廣瀬　直樹
調　査　期　間：平成27年３月３日（のべ１日）
調　査　原　因：個人住宅建設
調　査　方　法：調査対象地のうち､住宅の建設が予定されている西側に試掘トレンチ２基を設定し、人力による掘削を行った。なお、畑地として耕作物が植わっている場所については調査対象地から除外した。

第３節　調査の結果（第２図）

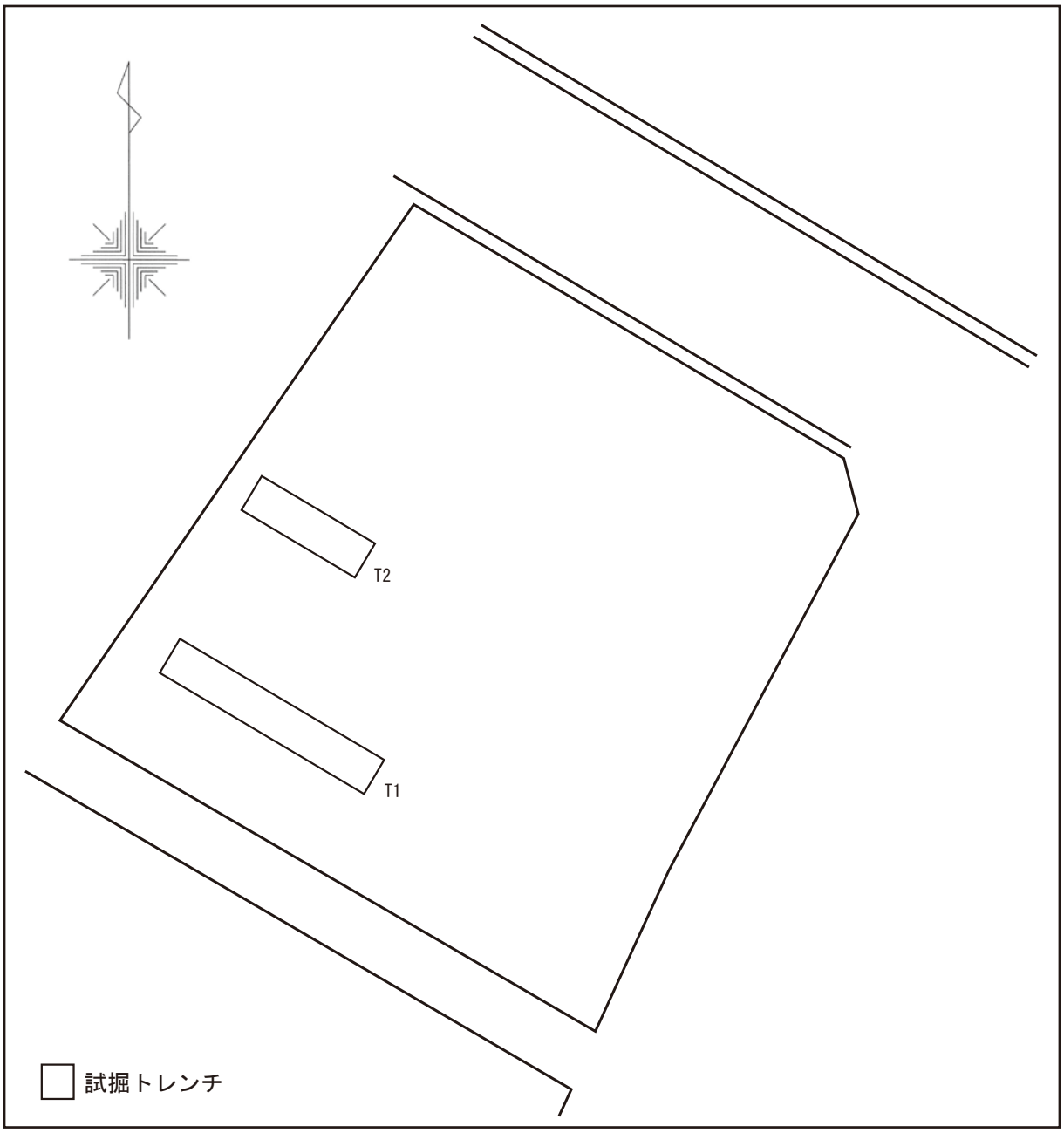
調査対象地は、過去に農協の施設があった場所だが、建物があった調査区南側では、建物解体後の整地土を確認した。また、北側については、建物建設前の造成土が確認された。

南北の造成土・整地土の下層には、玉砂利や円礫、ガラス片やビニール片、瓦、近現代陶磁器等が混じった整地土層が検出された。整地土層を掘削したところ、地表下約１ｍで純砂層を確認したが、同レベルから湧水したため、掘削はそこまでとした。住宅建設では0.5～１ｍの掘削を予定しており、そのレベルまでならば下層には影響がないと確認できたため、本調査は不要と判断した。

なお、調査対象地は、戦国時代末期の館跡「茨木館」の推定地に隣接しているが、「茨木館」に関連する遺構や遺物は確認できなかった。

第１表　柳田茨木遺跡　基本層序

Ⅰ層	耕作土	20～28cm	にぶい黄褐色砂
Ⅱ層	整地土	27～40cm	にぶい黄橙色砂（北側） にぶい黄橙色砂、にぶい黄橙色砂岩片混じる（南側）
Ⅲ層	整地土	26～30cm	黒褐色砂質土、玉砂利・瓦・近現代陶磁器・ガラス片等混じる、下層にこぶし大の石混じる
Ⅳ層		20cm	黒褐色砂質土、下層から湧水あり
Ⅴ層		10～30cm	褐灰色砂
Ⅵ層	地山		褐色砂



第２図　柳田茨木遺跡試掘トレンチ位置図（Ｓ＝１/250）

1．Ｔ１完掘状況（南東から）

2．Ｔ２完掘状況（南から）

3．作業風景

写真１　柳田茨木遺跡試掘調査

第３章　市道中谷内惣領線拡幅工事に伴う惣領浦之前遺跡試掘調査

第１節　遺跡の概要（第３図）

惣領浦之前遺跡は、仏生寺川の支流である鞍骨川北岸の平野に位置し、北側を小丘陵に接する。標高は約7.5～8.5mを測る（財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2010）。

惣領浦之前遺跡（旧称NEJ-16遺跡）は、能越自動車道の建設に先立つ分布調査で発見された遺跡である。能越自動車道の建設に先立って、平成15年度に実施された本発掘調査では、縄文時代後期初頭から晩期の自然流路や土坑、弥生時代後期の溝、古代から中世の集落跡が検出された。このうち弥生時代後期の溝からは、朱漆塗り盾や武器形木製品など祭祀に関わりのある遺物が出土した（財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2010）。調査対象地は、遺跡の北東端の1,300㎡、丘陵裾部に立地し、現況は水田である。

第３図　惣領浦之前遺跡位置図（Ｓ＝１/25,000）

第２節　調査の概要

所　　在　　地：氷見市惣領
調査対象面積：1,300㎡
発　掘　面　積：８㎡
調　査　主　体：氷見市教育委員会
調 査 担 当 者：氷見市教育委員会教育総務課　主任学芸員　廣瀬　直樹
調　査　期　間：平成27年５月14日（のべ１日）
調　査　原　因：市道拡幅
調　査　方　法：調査対象地に試掘トレンチ１基を設定し、人力による掘削を行った。なお、調査対象地のうち、農道部分と、墓地および畑地として盛土された一部の区画とについては、調査対象から除外した。また、能越自動車道本線直近の水田については、代掻き作業の後であり、田植えの予定があったことから調査対象から除外せざるを得なかった。そのため試掘トレンチは遺跡の範囲外の地点に設定し、調査を実施した。

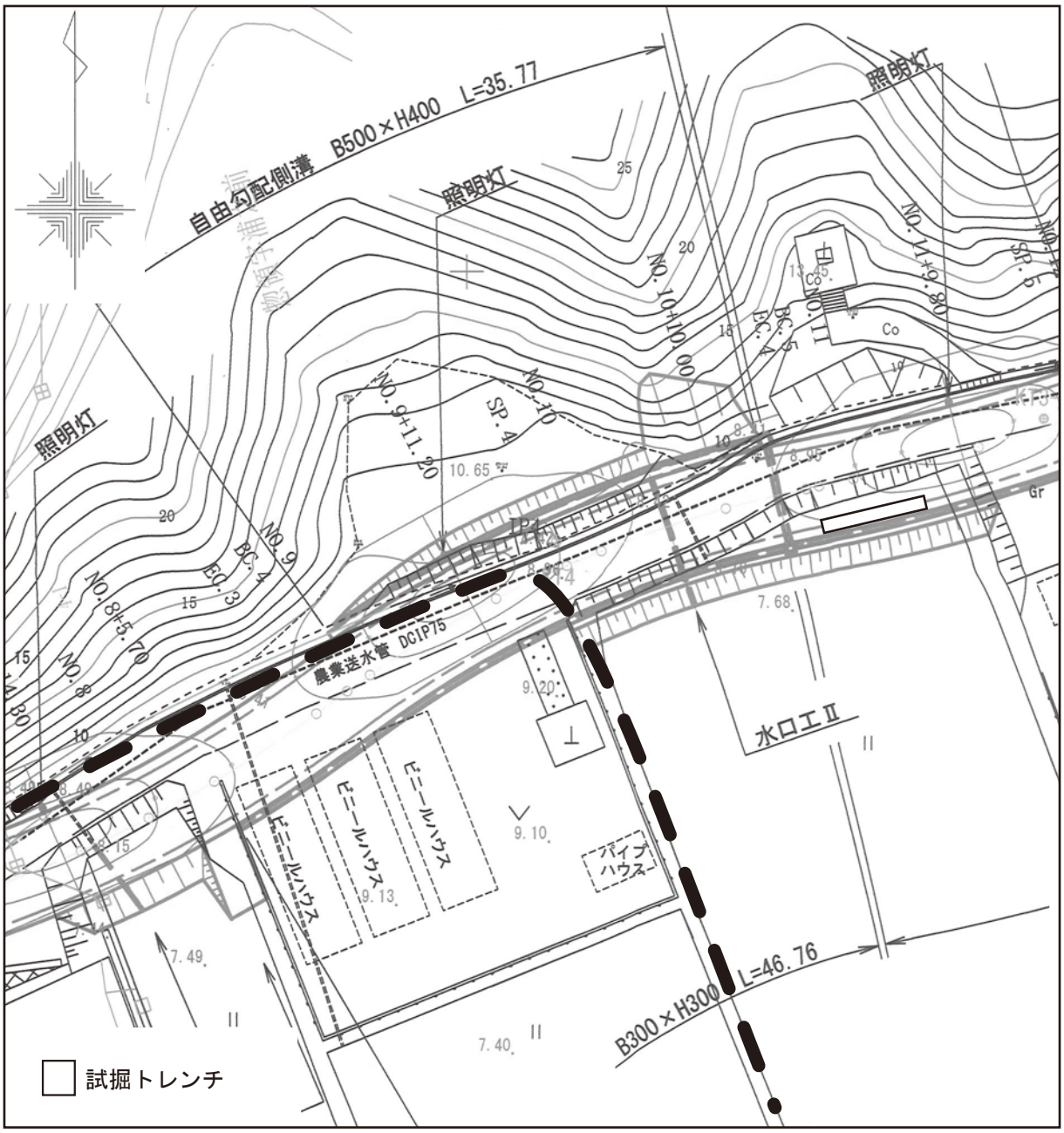
第３節　調査の結果（第４図）

調査の結果、耕作土の下に腐食木片等が混じる赤黒い粘質土層を検出し、さらにその下層、表土から約70cmのレベルでオリーブ黒色の粘質土層を検出した。この粘質土層が、本線部分での本調査時に地山とされた土層であると判断した。遺物は出土しなかった。

以上により、拡幅工事の影響は軽微と考え、本調査は不要と判断した。

第２表　惣領浦之前遺跡　基本層序

Ⅰ層	耕作土	40cm	灰黄褐色シルト
Ⅱ層		40cm	黒褐色粘質土、腐食木片等混じる
Ⅲ層			オリーブ黒色粘質土



第４図　惣領浦之前遺跡試掘トレンチ位置図（Ｓ＝１/500）

1．調査区近景（北東から）

2．試掘トレンチ完掘状況
（南西から）

3．作業風景

写真２　惣領浦之前遺跡試掘調査

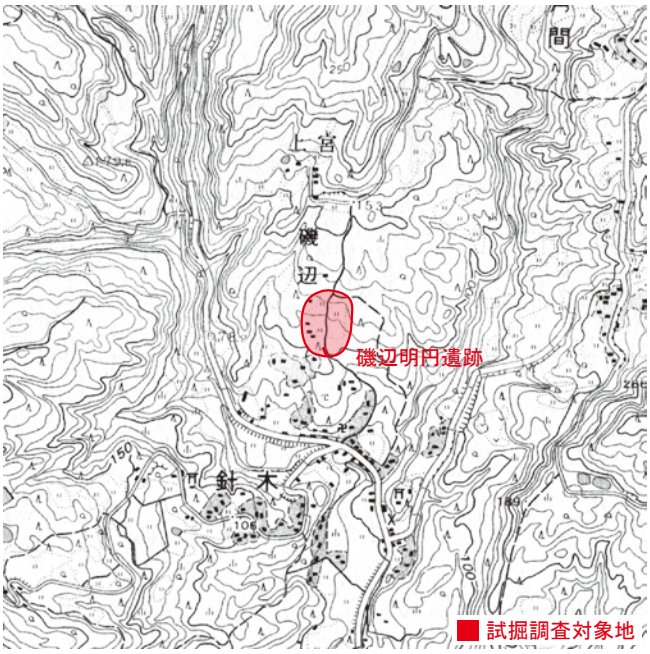
第４章　市道磯辺村木線拡幅工事に伴う磯辺明円遺跡試掘調査

第１節　遺跡の概要（第５図）

磯辺明円遺跡は、阿尾側上流の丘陵部、標高約100～125mに立地する。現況は山林・水田・宅地である。

昭和20年代、宅地の整地中に縄文土器・打製石斧・石匙が出土したという（富山県立氷見高等学校歴史クラブ1964・氷見市2002）。

調査対象地は、遺跡南側の550㎡、現況は山林である。



第５図　磯辺明円遺跡位置図（Ｓ＝１/25,000）

第２節　調査の概要

所　　在　　地：氷見市磯辺
調査対象面積：550㎡
発　掘　面　積：13.7㎡
調　査　主　体：氷見市教育委員会
調 査 担 当 者：氷見市教育委員会教育総務課　主任学芸員　廣瀬　直樹
調　査　期　間：平成27年11月26日（のべ１日）
調　査　原　因：市道拡幅
調　査　方　法：調査対象地に試掘トレンチ１基を設定し、人力による掘削を行った。

第３節　調査の結果（第６図）

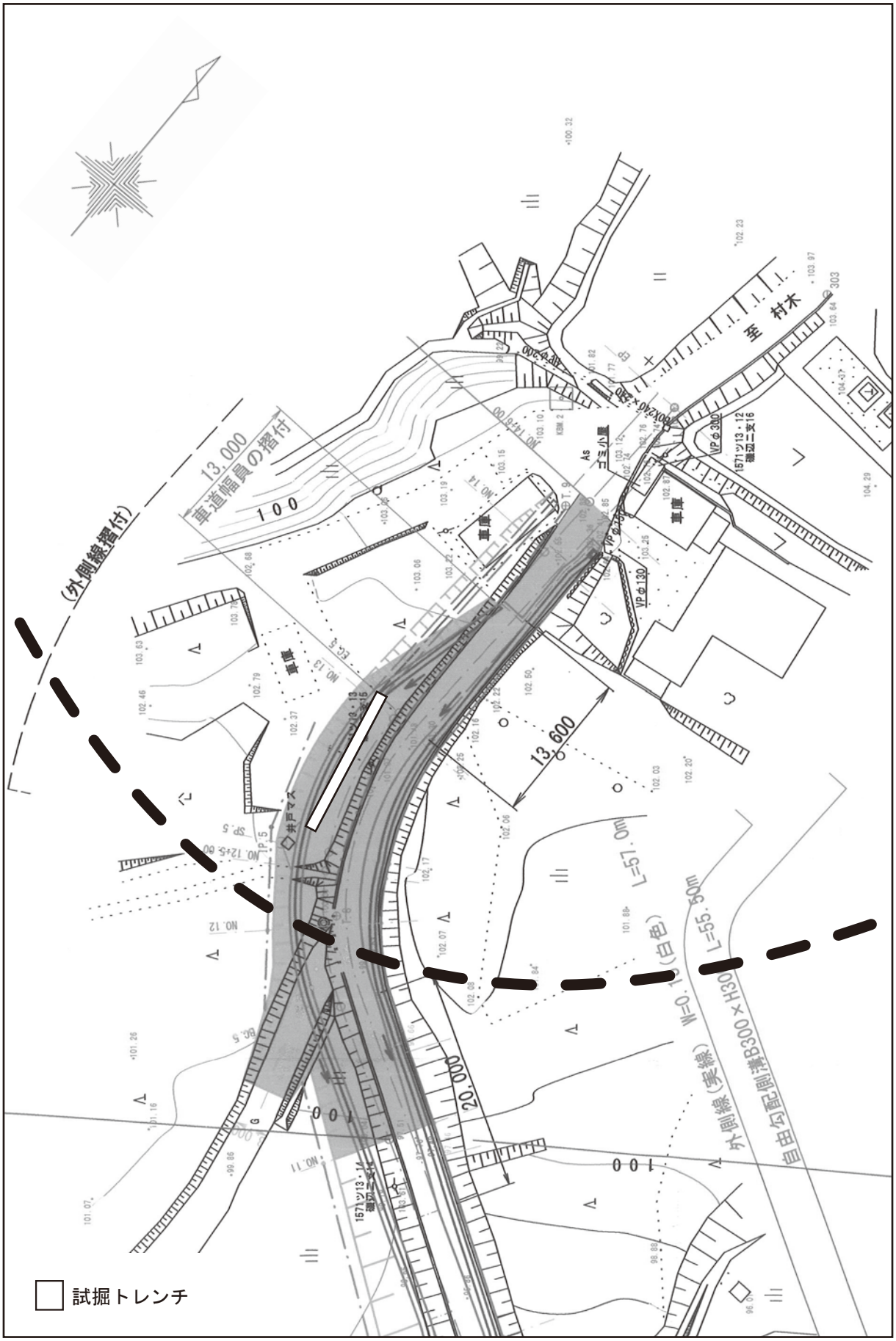
調査対象地の長軸方向に試掘トレンチを１基設定した。表土を除去後、褐色の粘質土層、褐色粘質土に岩盤の泥岩片が混じる層を確認し、この泥岩片が混じる層を地山と判断した。

遺物は出土せず、遺構も確認できなかった。周辺は、スギの植林がされている場所であり、一度削平を受けている可能性が高い。また褐色粘質土中に水を引くための塩ビパイプが埋設されており、攪乱も受けているものと考えられる。

以上により、本調査は不要と判断した。

第３表　磯辺明円遺跡　基本層序

Ⅰ層	表土	５～15cm	黒褐色土、空き缶等ゴミ混じる
Ⅱ層		０～５cm	黒色シルト質土
Ⅲ層		27cm～	褐色土
Ⅳ層	地山		褐色土、浅黄橙色岩盤片（２～10cm程度）多く混じる



第６図　磯辺明円遺跡試掘トレンチ位置図（Ｓ＝１/500）

1．調査区近景（北から）

2．試掘トレンチ完掘状況
（南西から）

3．作業風景

写真３　磯辺明円遺跡試掘調査

引用・参考文献

大野　究 2013「氷見市柳田地区の館跡について」『平成24年度　氷見市立博物館年報』第31号 氷見市立博物館

財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2005『大規模発掘調査の速報展　古代のかたりべ』

財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2010『惣領浦之前遺跡・惣領野際遺跡発掘調査報告　―能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅸ―』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第45集

富山県立氷見高等学校歴史クラブ 1964『富山県氷見地方　考古学遺跡と遺物』氷高歴史クラブ報告書 №11

氷見市 1963『氷見市史』

氷見市 1999『氷見市史』９資料編７自然環境

氷見市 2000『氷見市史』６資料編４民俗、神社・寺院

氷見市 2002『氷見市史』７資料編５考古

氷見市教育委員会 2008『氷見市遺跡地図［第三版］【改訂版】』氷見市埋蔵文化財調査報告第51冊

氷見市教育委員会 2015『氷見市内遺跡発掘調査概報Ⅴ　一般国道415号道路改築事業に伴う試掘調査ほか』氷見市埋蔵文化財調査報告第66冊

氷見市立博物館 2011『特別展　卑弥呼の時代の氷見　―古墳出現前夜―』

報 告 書 抄 録

ふりがな	ひみしないいせきはっくつちょうさがいほう　ろく
書名	氷見市内遺跡発掘調査概報 Ⅵ
副書名	柳田茨木遺跡　惣領浦之前遺跡　磯辺明円遺跡
シリーズ名	氷見市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第68冊
編著者名	廣瀬　直樹
編集機関	氷見市教育委員会
所在地	〒935-8686　富山県氷見市鞍川1060番地　TEL0766（74）8211
発行年月日	2016年3月20日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	発掘期間	発掘 面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
やないだいばらぎいせき 柳田茨木遺跡	ひみしやないだ 氷見市柳田	16205	238	36° 50′ 00″	136° 59′ 52″	20150303	21 ㎡	試掘・確認調査
そうりょうううらのまえいせき 惣領浦之前遺跡	ひみしそうりょう 氷見市惣領	16205	312	36° 48′ 33″	136° 57′ 08″	20150514	8 ㎡	試掘・確認調査
いそべみょうえんいせき 磯辺明円遺跡	ひみしいそべ 氷見市磯辺	16205	014	36° 55′ 16″	136° 57′ 20″	20151126	13.7 ㎡	試掘・確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
柳田茨木遺跡	散布地	―	なし	近現代磁器	開発実施
惣領浦之前遺跡	集落	―	なし	なし	開発実施
磯辺明円遺跡	散布地	―	なし	なし	開発実施

要約

平成26年度に実施した個人住宅建設に伴う柳田茨木遺跡の試掘調査では、以前に建てられていた建物のための造成土が確認され、近現代陶磁器が出土した。

平成27年度に実施した市道拡幅に伴う惣領浦之前遺跡と磯辺明円遺跡の試掘調査では、いずれの遺跡も遺物は出土せず、遺構は検出されなかった。

以上により、３遺跡とも本発掘調査は不要と判断した。

平成 28 年 3 月 15 日印刷
平成 28 年 3 月 18 日発行

氷見市埋蔵文化財調査報告第 68 冊

氷見市内遺跡発掘調査概報Ⅵ

柳田茨木遺跡
惣領浦之前遺跡
磯辺明円遺跡

編集・発行　氷見市教育委員会
〒935-8686
富山県氷見市鞍川1060番地
☎0766（74）8211
印　　刷　株式会社　トーザワ